

寺内希選手（秦野高校卒業生）が全国駅伝競走大会で大活躍！

平成 28 年 12 月 秦野高校

発行です

寺内選手の栄光を後輩へ

郵便局が秦高へパネル寄贈



秦野郵便局から贈られた寺内選手の写真パネル

11月の第36回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会で優勝した日本郵政グループ女子陸上部でアンカーを務めた寺内希選手(20)の写真パネルが、12月15日、秦野郵便局(船渡川徹局長)から寺内選手の母校・県立秦野高校(神戸秀日校長)へ贈られた。

パネルに取められた写真は、大会当日会場に居合わせた相模台郵便局(相模原市)の安藤潤一郎局長が撮影したもの。ゴール後、満面の笑みで胸上げされている寺内選手が写っている。

秦野郵便局の船渡川局長は15日に同校を訪問し、神戸校長にパネルを手渡しした。神戸校長は「サクセスストーリーを身近に感じることで、将来の夢や受験、部活動に取り組む生

徒たちの励みになるはずだ」と感謝を述べた。パネルは同校の陳列ケースに保管・展示される予定だ。

「頑張ってきた」 本当によかった

寺内選手は秦野市立北中学校を卒業後、秦野高校陸上部で活躍。2年生の時に、次年度新設予定だった日本郵政グループ女子陸上部から誘いがあった。

入団1年目の2015年、同大会初出場の日本郵政は12位だったが、寺内選手はアンカーを務め、区間賞とわずか8秒差の好走。「次は8位入賞」と決意を新たに練習に励んできた。

10月に行われた予選会で最終6区の区間賞に輝き、出場を決めた今大会、メンバー全員が好走し、5区の鍋島利奈選手から1位で棒を渡された。その順位を守り、ゴールした瞬間、「厳しい練習を乗り越え、頑張ってきた本当によかった」と改めて感じたという。

寺内選手は当紙の取材に対し「全国大会で好成績を上げたことのない私が、まさか全日本実業団対抗女子駅伝の優勝テープを切れるとは思ってもみませんでした。今も驚きと、そして嬉しさをいっばいです」と話し、「秦野高校の皆さんにおいては日々、部活動と勉強

に励んでいることだと思います。何事も最後まで諦めないこと。そして楽しむことも忘れず、頑張ってください」と思い、後輩にエールを送った。



神戸校長と船渡川局長(右)

大会の様子をテレビ中継で見守っていた同校陸上部の湯山秀史顧問は、「高校時代から素直で一生懸命な選手でした。飛躍する先輩たちに刺激を受けながら、今後頑張ってください」と笑顔を見せた。

11月27日（日）に宮城県で行われた「クイーンズ駅伝 in 宮城 第36回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会」で、秦野高校を平成27年3月に卒業した寺内希（のぞみ）選手が所属する日本郵政グループが、出場2回目で初優勝を飾りました。

陸上競技部OGの寺内希選手は、最終6区を走り、トップでゴールしました。日本郵政グループにとって、初の快挙を成し遂げました。ちなみに、昨年の日本郵政グループは、12位でのゴールでした。

12月15日に、秦野高校にて、日本郵政の秦野郵便局長から記念パネルが贈呈された時のインタビューなどが「タウンニュース秦野版」に掲載されました。

■寺内希選手のことば

『全国大会で好成績を上げたことのない私が、まさか全日本実業団女子駅伝の優勝テープを切れるとは思ってもみませんでした。今も驚きと、そして嬉しさでいっぱいです。』

『秦野高校の皆さんにおいては日々、部活動と勉強に励んでいることと思います。何事も最後まで諦めないこと。そして楽しむことも忘れず、頑張っしてほしいと思います。』

■秦野高校陸上競技部の湯山秀史顧問のことば

『高校時代から素直で一生懸命な選手でした。飛躍する先輩たちに刺激を受けながら、今後も頑張っほしい。』

「タウンニュース」秦野（12月22日号） ※上の記事

<http://www.townnews.co.jp/0610/i/2016/12/22/362931.html>

「神奈川新聞」記事

<http://www.kanaloco.jp/article/215132>

「毎日新聞」記事

<http://mainichi.jp/articles/20161127/k00/00e/050/133000c>

◆寺内希選手紹介（日本郵政グループ女子陸上部ホームページ）

<https://www.japanpost.jp/athlete/profile/index15.html>

【参考】

秦野高校陸上競技部が男女ともに群馬県で開かれる関東大会に出場

11月5日 神奈川県高等学校駅伝競走大会（山北町丹沢湖周回コース）

男子チーム 4位 女子チーム 4位

<http://www.townnews.co.jp/0610/i/2016/11/17/358042.html>